



## Cisco Unified MeetingPlace Audio Server Release 6.0(0.25) リリース ノート

---

*Published May 31, 2007*

このリリース ノートでは、Cisco Unified MeetingPlace Audio Server Release 6.0(0.25) の新規および変更されたサポート、新規および変更された機能、制限と制約、未解決および解決済みの警告について説明します。また、Cisco Unified MeetingPlace MeetingTime Release 6.0(0.23) についても触れます。

Audio Server と MeetingTime のすべてのバージョンに関する最新のソフトウェア アップグレードには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> にある Cisco Software Center Web サイトでアクセスできます。



**(注)**

---

ソフトウェア ダウンロード ページにアクセスするには、Cisco.com に登録ユーザとしてログインする必要があります。

---

## 目次

このリリース ノートは、次の項で構成されています。

- [概要 \(P.2\)](#)
- [システム要件 \(P.3\)](#)
- [関連資料 \(P.4\)](#)
- [新規および変更された要件とサポート : Release 6.0\(0.25\) \(P.4\)](#)
- [新機能 : Release 6.0\(0.25\) \(P.5\)](#)
- [変更された機能 : Release 6.0\(0.25\) \(P.6\)](#)
- [インストールおよびアップグレードに関する情報 \(P.7\)](#)
- [制限と制約 \(P.28\)](#)
- [警告 \(P.29\)](#)
- [トラブルシューティング情報 \(P.32\)](#)
- [技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン \(P.32\)](#)

## 概要

Cisco Unified MeetingPlace Audio Server は、Cisco Unified MeetingPlace システムを実行するソフトウェアです。このソフトウェアは、Cisco Unified MeetingPlace 8106 または Cisco Unified MeetingPlace 8112 ハードウェア サーバにインストールします。追加のソフトウェア コンポーネント (Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing や Cisco Unified MeetingPlace for Microsoft Outlook など) は、Cisco Media Convergence Server (MCS) にインストールします。

MeetingTime は、お客様が用意した Windows コンピュータから Audio Server システムの機能にアクセスし、機能を使用するためのシステム管理者用のデスクトップソフトウェアです。

## システム要件

この項では、次の情報について説明します。

- [Cisco Unified MeetingPlace Audio Server Release 6.0 の要件 \( P.3 \)](#)
- [互換性情報 \( P.3 \)](#)
- [ソフトウェア バージョンの確認 \( P.3 \)](#)

### Cisco Unified MeetingPlace Audio Server Release 6.0 の要件

Audio Server の要件の最新情報については、『*Cisco Unified MeetingPlace Release 6.0 システム要件*』を参照してください。このマニュアルは、

[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html) ( 英語版 ) で入手できます。

### 互換性情報

Audio Server Release 6.0 と他の Cisco Unified MeetingPlace コンポーネントとの互換性については、[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products\\_device\\_support\\_tables\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_device_support_tables_list.html) ( 英語版 ) にある『*互換性マトリクス : Cisco Unified MeetingPlace コンポーネント*』を参照してください。

### ソフトウェア バージョンの確認

この項では、使用している次のソフトウェアのバージョンを確認する手順を説明します。

- [Cisco Unified MeetingPlace Audio Server \( P.3 \)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace のゲートウェイおよびサービス \( P.4 \)](#)

### Cisco Unified MeetingPlace Audio Server

#### 使用している Cisco Unified MeetingPlace Audio Server のバージョンを確認する

- 
- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Audio Server の Command Line Interface ( CLI; コマンドライン インターフェイス ) ウィンドウを開きます。
  - ステップ 2** `release` と入力します。
  - ステップ 3** `Enter` キーを押します。Audio Server のバージョンが表示されます。
-

## Cisco Unified MeetingPlace のゲートウェイおよびサービス



### 注意

Cisco Unified MeetingPlace コンポーネントをアップグレードした場合は、Cisco Unified MeetingPlace Gateway System Integrity Manager (GWSIM) を再起動する必要があります。再起動しないと、バージョン番号が不正になる場合があります。

### 使用している Cisco Unified MeetingPlace のゲートウェイ バージョンおよびサービスを確認する

- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Audio Server の Command Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) ウィンドウを開きます。
- ステップ 2** `gwstatus` と入力します。
- ステップ 3** Enter キーを押します。使用している Cisco Unified MeetingPlace のゲートウェイ バージョンおよびサービスが表示されます。

## 関連資料

Cisco.com の Cisco Unified MeetingPlace のマニュアルの説明および場所については、『*Documentation Guide for Cisco Unified MeetingPlace*』を参照してください。このマニュアルは、Cisco Unified MeetingPlace に同梱されており、

[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products\\_documentation\\_roadmaps\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_documentation_roadmaps_list.html) で入手できます。

## 新規および変更された要件とサポート : Release 6.0(0.25)

この項では、Cisco Unified MeetingPlace Audio Server Release 6.0(0.25) のみの新規および変更された要件とサポートについて説明します。旧バージョンの Audio Server の新規および変更されたサポートについては、該当するバージョンのリリース ノートを参照してください。Audio Server の全バージョンのリリース ノートは、

[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_release\\_notes\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_release_notes_list.html) で入手できます。

## PCI から cPCI への変換

Cisco Unified MeetingPlace Release 6.0 では、PCI から cPCI への Cisco Unified MeetingPlace システム変換はサポートされなくなりました。また、`mpconvert` 技術者コマンドもサポートされなくなりました。

## 新機能 : Release 6.0(0.25)

この項では、Cisco Unified MeetingPlace Audio Server Release 6.0(0.25) のみの新機能について説明します。旧バージョンの Audio Server の新機能については、該当するバージョンのリリース ノートを参照してください。Audio Server の全バージョンのリリース ノートは、[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_release\\_notes\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_release_notes_list.html) で入手できます。

### In Session タブ : Group Name カラム

In Session タブの参加者ウィンドウには、Group Name カラムが表示されます。このカラムには、各会議参加者のグループ名が表示されます。

### Summary Web Port Utilization ツール

システム管理者は Summary Web Port Utilization ツールを使用して、特定の数日間について、スケジュールされた最大 Web ポート使用率と実際の最大 Web ポート使用率を表示できます。このツールは Summary Web Port Utilization グラフを生成します。

各グラフは、最長 1 か月間の最大ポート使用率をポート使用率の要約と共に表示し、オプションで次の情報を表示できます。

- スケジュールされたポートの平均と分布範囲
- 実際に使用されたポートの平均と分布範囲

詳細については、

[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_maintenance\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_maintenance_guides_list.html)( 英語版 )にある『Cisco Unified MeetingPlace Audio Server アドミニストレーションガイド Release 6.x』を参照してください。

## 変更された機能 : Release 6.0(0.25)

この項では、Cisco Unified MeetingPlace Audio Server Release 6.0(0.25) のみの変更された機能について説明します。旧バージョンの Audio Server の変更された機能については、該当するバージョンのリリース ノートを参照してください。Audio Server の全バージョンのリリース ノートは、[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_release\\_notes\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_release_notes_list.html) で入手できます。

### 会議統計情報データの保持

Days Until Mtg Stats Purged フィールドの最大値が、180 日から 365 日に増やされました。

### Billing Information (Detail) レポート

Billing Information (Detail) レポートには、ビデオに関する 1 分当たりの課金レートが表示されます。また、このレポートには、各会議で費やされた課金コードごとの合計時間が、音声、完全な Web、参加者リストのみの Web、およびビデオに費やされた時間に分けて表示されます。

### Meeting Attendance by User レポート

Meeting Attendance by User レポートには、会議で費やされた時間が、音声、完全な Web、参加者リストのみの Web、およびビデオに費やされた時間に分けて表示されます。

### Meeting Information レポート

Meeting Information レポートには、会議で費やされた時間が、音声、完全な Web、参加者リストのみの Web、およびビデオに費やされた時間に分けて表示されます。

### Permanent Meetings レポートから Continuous Meetings レポートへの名称変更

Permanent Meetings レポートは、Continuous Meetings レポートに名称変更されました。また、このレポートには、各会議で費やされた合計時間が、音声、完全な Web、参加者リストのみの Web、およびビデオに費やされた時間に分けて表示されます。

## インストールおよびアップグレードに関する情報

- [Cisco Unified MeetingPlace Audio Server Release 6.0 の初回インストール \(P.7\)](#)
- [MeetingTime Release 6.0 のインストールまたはこのリリースへのアップグレード \(P.7\)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace 6.0 へのアップグレード \(P.8\)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace 6.0 の移行タスク リスト \(P.10\)](#)
- [SMA-1S Web Conferencing 展開を移行するためのタスク リスト \(P.25\)](#)
- [SMA-2S Web Conferencing 展開を移行するためのタスク リスト \(P.27\)](#)

### Cisco Unified MeetingPlace Audio Server Release 6.0 の初回インストール

シスコシステムズでは、Audio Server Release 6.0 ソフトウェアがあらかじめインストールされた新しい Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムを提供しています。

ハードウェアのインストール手順については、

[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html) (英語版)にある『Cisco Unified MeetingPlace Audio Server インストール アップグレード ガイド Release 6.x』を参照してください。

### MeetingTime Release 6.0 のインストールまたはこのリリースへのアップグレード

最初に、MeetingTime ソフトウェアをダウンロードし、解凍する必要があります。

#### MeetingTime Release 6.0 ソフトウェアをダウンロードして解凍する

**ステップ 1** <http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> にある Cisco Software Center Web サイトに移動します。

**ステップ 2** Cisco Unified MeetingPlace セクションで、**MeetingTime** リンクをクリックします。

**ステップ 3** MeetingTime の現行バージョンのファイルをダウンロードします。

**ステップ 4** 市販されている任意の ISO ファイル解凍プログラムを使用して、ISO ファイルをローカル ハードディスク上の選択したディレクトリに展開します。

ISO ファイルを展開するプログラムが見つからない場合は、市販されている任意の CD-ROM 書き込みプログラムを使用して、ファイルを CD に書き込みます。

**ステップ 5** **SetupMeetingTime<version>.exe** というファイルが (ローカル ハードディスクまたはオプションの CD-ROM 上に) 作成されたことを確認します。

ファイルが見つからない場合は、Cisco Network Consulting Engineering (NCE) にお問い合わせください。

MeetingTime のインストールおよびアップグレード手順については、

[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_maintenance\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_maintenance_guides_list.html) (英語版)にある『Cisco Unified MeetingPlace Audio Server アドミニストレーション ガイド Release 6.x』の付録「MeetingTime のインストール」を参照してください。

## Cisco Unified MeetingPlace 6.0 へのアップグレード



### 注意

Cisco Unified MeetingPlace バージョン 6.0 を使用する場合は、すべての Cisco Unified MeetingPlace 統合コンポーネントを、Microsoft Windows Server 2003 ベースの Cisco MCS オペレーティングシステムを実行する MCS サーバにインストールする必要があります。オペレーティングシステムを Windows 2000 Server ベースのバージョンから Windows 2003 ベースのバージョンに変更するには、新規インストールが必要です。シスコでは、オペレーティングシステムを Windows 2000 ベースのバージョンから Windows 2003 ベースのバージョンにアップグレードすることはサポートしていません。

移行プロセスは複雑であるため、必ず慎重にマニュアルの指示に従ってください。

新規の MCS サーバをインストールするか、既存の MCS サーバを使用するかに関係なく、Windows 2003 ベースのバージョンのオペレーティングシステムをインストールした後でお客様固有のアプリケーション データをサーバへ移行する場合は、そのデータをバックアップする必要があります。

移行が完了すると、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Backup/Restore Wizard を使用してバックアップおよび復元された以前の会議の添付および音声記録は、移行先の Web Conferencing サーバで使用できるようになります。ただし、音声と Web が同期された記録は、Release 6.0 サーバでは再生できません。この記録にユーザがアクセスする必要がある場合は、元の 6.0 以前の Web Conferencing サーバを保持する必要があります。したがって、移行を実行する前に、Web Conferencing の移行方法を次の 3 つの中から 1 つ選択する必要があります。

### 6.0 以前の Web Conferencing サーバをバージョン 6.0 に置き換える (同じハードウェアを使用するか、または移行中にハードウェアを置き換えて古いハードウェアを稼働中止にする)

- ユーザは 6.0 サーバにおいて既存の添付および音声記録にアクセスできますが、既存の音声と Web が同期された記録にはアクセスできなくなります。
- ハードウェアを置き換える場合は、元のサーバの DNS ホスト名を新規のハードウェアでも使用することをお勧めします。同じ名前をそのまま使用すると、設定とカスタマイゼーションをシームレスに移行できます。また、展開によっては、ユーザは以前にスケジュールされた会議の URL をクリックして、Web 共有セッションを起動する場合があります。DNS ホスト名をそのまま使用すると、その URL が以前と同じように機能することが保証されます。
- P.10 の「Cisco Unified MeetingPlace 6.0 の移行タスク リスト」のタスクを実行します (または、Segmented Meeting Access 展開を使用している場合は、必要に応じて P.25 の「SMA-1S Web Conferencing 展開を移行するためのタスク リスト」または P.27 の「SMA-2S Web Conferencing 展開を移行するためのタスク リスト」のタスクを実行します)。ハードウェアを置き換える場合は、元のサーバでデータをバックアップしてから、古いハードウェアを稼働中止にします。

**新規の 6.0 Web Conferencing サーバを構築し、新規のサーバを一時的に元のサーバと同時に実行し、既存の音声と Web が同期された記録にユーザがアクセスする必要がなくなった時点で元のサーバを稼働中止にする**

- ユーザは音声と Web が同期された記録にアクセスできます。この状態は、記録が消去されるか、元のサーバが稼働中止になるまで持続します。
- 新規のサーバでは、元のサーバの IP アドレスまたはホスト名は使用されません。



**注意**

Cisco Unified MeetingPlace for Outlook、Cisco Unified MeetingPlace for Lotus Notes、Cisco Unified MeetingPlace SMTP E-Mail Gateway、Cisco Unified MeetingPlace H.323/SIP Gateway、および Cisco Unified MeetingPlace Directory Services の移行プロセスでは、ソフトウェアの復元は、データのバックアップに使用された IP アドレスまたはホスト名と同じものを持つマシンで行う必要があります。これらの統合コンポーネントのいずれかがインストールされたサーバに対してこの方法を選択した場合は、そのサーバで統合コンポーネントの新規インストールを実行する必要があります。

- [P.10 の「Cisco Unified MeetingPlace 6.0 の移行タスク リスト」](#)のタスクを実行します。この場合、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Backup/Restore Wizard を実行する必要はありません。カスタマイゼーションと設定はすべて、新規の 6.0 Web Conferencing サーバへ手動で移行します。
- 移行期間では、両方の Web Conferencing サーバは、同じ Audio Server に接続してこれを共有します。
- 6.0 および元の Web Conferencing サーバは、SQL Server データベースまたは共有ストレージ ロケーションを共有することはできません。

**Web Conferencing のファイル、設定、およびホスト名を新規の 6.0 サーバへ移行する一方で、元のサーバを別のホスト名で引き続き実行することにより、既存の音声と Web が同期された記録にユーザがアクセスできるようにする**

- ユーザは音声と Web が同期された記録にアクセスできます。この状態は、記録が元のサーバから消去されるまで持続します。
- [P.10 の「Cisco Unified MeetingPlace 6.0 の移行タスク リスト」](#)のタスクを実行します。この場合は、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Backup/Restore Wizard の実行後に、元のサーバの DNS ホスト名を変更し、新規の 6.0 サーバを構築するときに元の DNS ホスト名を使用します。
- 両方の Web Conferencing サーバは、同じ Audio Server に接続してこれを共有します。
- 6.0 および元の Web Conferencing サーバは、SQL Server データベースまたは共有ストレージ ロケーションを共有することはできません。
- 既存の音声と Web が同期された記録は Audio Server によって追跡されるため、MeetingTime を使用して Audio Server の Days Until Meetings Stats Purged 設定を十分大きな値に変更すること、および元の Web Conferencing サーバの Purge Meetings Held Before (Days) 設定の値を増やすことをお勧めします。このように設定すると、元のサーバと新規のサーバが同時に動作している限り、ユーザが既存の記録にアクセスできることが保証されます。

次のタスク リストを使用して、展開に該当するタスクを正しい順序で実行します。

## Cisco Unified MeetingPlace 6.0 の移行タスク リスト



**注意**

移行プロセスは複雑であるため、必ず慎重にマニュアルの指示に従ってください。



**(注)**

Terminal Services を使用して Release 6.0 へ移行することはサポートされていません。

1. Web Conferencing の移行方法をまだ選択していない場合は、ここで選択します。P.8 の「Cisco Unified MeetingPlace 6.0 へのアップグレード」を参照してください。
2. Audio Server をアップグレードします。P.14 の「Cisco Unified MeetingPlace Audio Server Release 6.0 へのアップグレード」を参照してください。
3. 『Cisco Unified MeetingPlace Release 6.0 システム要件』を調べて、使用する Cisco MCS サーバモデルが Release 6.0 コンポーネントでサポートされていることを確認します。このマニュアルは、[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html) (英語版)で入手できます。サーバハードウェアがサポートされなくなった場合は、新規の MCS ハードウェアにアップグレードする必要があります。



**(注)**

Cisco MCS モデル 7835H-3.0-IPC1、7835I-3.0-IPC1、および 7845H-3.0-IPC1 (および同等のサードパーティ製モデル) はサポートされなくなりました。

4. お客様固有のアプリケーション データをバックアップします。新規のサーバへ移行する場合や、既存のサーバに新規のオペレーティング システムをインストールする場合は、Windows 2003 のインストール後に復元されるお客様固有のデータをバックアップする必要があります。

展開に応じて、次のコンポーネントのバックアップ手順を実行します。

- a. Cisco Unified MeetingPlace Network Backup Gateway : バックアップ ディレクトリにあるすべてのファイルをバックアップします。この場所は、お客様の設定によって異なる場合があります。ディレクトリの場所は次のレジストリ設定に格納されています。  
HKLM/Software/Latitude/MeetingPlace Backup/MPBackup\_Dir
- b. Cisco Unified MeetingPlace H.323/SIP Gateway : C:\Latitude\MeetingPlace IP Gateway ディレクトリにある config-ras.val、config.val、および dialgroups.txt というファイルをバックアップします。<WINDOWS>\system32 に rvtel.ini が存在する場合は、それもバックアップします。
- c. Cisco Unified MeetingPlace Directory Services : C:\Program Files\Cisco Systems\MeetingPlace Directory Services\config\ にある変更済みのファイルをバックアップします。
- d. Cisco Unified MeetingPlace SMTP E-Mail Gateway : C:\Program Files\Cisco Systems\MeetingPlace E-mail Gateway\ にあるカスタマイズ済みの通知テンプレート (.tpl ファイル) をバックアップします。
- e. Cisco Unified MeetingPlace for Outlook : C:\Program Files\Cisco Systems\MPWeb\mpoutlook にあるカスタマイズ済みのファイル (mpmessage.rtf、mpMsgRsvl.rtf、および mpMsgVideoNot.rtf) と、各言語のサブフォルダにあるカスタマイズ済みのファイルをバックアップします。また、C:\Program Files\Cisco Systems\Shared Components\MeetingPlace Notification Gateway\ にあるカスタマイズ済みのファイル (NotifySchedule.tpl、NotifyScheduleVideo.tpl、NotifyReSchedule.tpl、NotifyReScheduleVideo.tpl、NotifyCancel.tpl、NotifyNoShow.tpl、および NotifyRenewRecur.tpl) と、各言語のサブフォルダにあるカスタマイズ済みのファイルもバックアップします。サーバが参加している Windows ドメインと、サーバでデフォルトの Microsoft Outlook メールボックス用に作成された Windows 管理者アカウントとパスワードを書き留めます。

- f. Cisco Unified MeetingPlace for Lotus Notes : user.id ファイル (ファイルのデフォルトの場所は C:\Program Files\Lotus\Notes\Data) と notification.tpl ファイル (ファイルのデフォルトの場所は C:\Program Files\Cisco Systems\Cisco MeetingPlace for Notes) をバックアップします。
- g. Cisco Unified MeetingPlace Video Integration : カスタムの SSL 証明書があればすべてバックアップします。
- h. Cisco Unified MeetingPlace Gateway SIM : Gateway SIM は Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing を使用してバックアップおよびインストールされます。システムトレイで、Cisco Unified MeetingPlace のアイコン (オレンジ色のドア) を右クリックし、Properties をクリックします。左下のボックスに表示される Audio Server のホスト名、FQDN、または IP アドレスを書き留めます。Web Conferencing を再インストールするときは、この情報を表示どおりに入力する必要があります。



(注) Cisco Unified MeetingPlace for Jabber は MCS サーバにインストールされていないため、バックアップ対象となるお客様固有のデータはありません。

5. 既存の音声と Web が同期された記録へのユーザアクセスを保持するかどうかの判断に応じて、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サーバ上のお客様固有のデータをバックアップします。  
展開に応じて、次の状況に対応したバックアップ手順を実行します。
  - a. 旧リリース (5.3 または 5.4) に戻す場合に備えて、Web Conferencing を手動でバックアップします。このタスクは省略可能ですが、実行することを強くお勧めします (Web Conferencing サーバのクラスタを使用している場合、このタスクは各サーバで実行します)。P.14 の「Web Conferencing の手動バックアップ」を参照してください。
  - b. Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Backup Wizard を実行して、Web Conferencing Release 5.3 または 5.4 の設定と会議情報を Windows 2003 オペレーティングシステム上の Release 6.0 へ移行する実行可能ファイルを生成します (Web Conferencing サーバのクラスタを使用している場合、このタスクは各サーバで実行します)。P.16 の「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Backup Wizard を使用した Web Conferencing のバックアップ」を参照してください。
  - c. 展開に共有外部データベースが含まれている場合 (つまり、データベースが Web Conferencing サーバにインストールされていない場合)、およびタスク 5.a において手動バックアップの一環としてデータベースをまだバックアップしていない場合は、外部データベースをバックアップします。P.17 の「共有外部データベースのバックアップ」を参照してください。
  - d. 展開に共有または外部ストレージが含まれている場合 (つまり、複数の Web Conferencing サーバが 1 つの場所に MeetingNotes を格納している場合、または MeetingNotes が外部のストレージロケーションに格納されている場合)は、そのストレージロケーションをバックアップします。P.18 の「共有または外部ストレージのバックアップ」を参照してください。
6. 元の Web Conferencing サーバを新規のサーバハードウェアに置き換えた後、音声と Web が同期された記録へのユーザアクセスを保持しない場合: 元の Web Conferencing サーバを稼働中止にします。
7. Web Conferencing のファイル、設定、およびホスト名を新規の 6.0 サーバへ移行した後も、音声と Web が同期された記録へのユーザアクセスを保持する場合: 元のサーバの DNS ホスト名を別の名前に変更します。
8. MCS サーバに Windows 2003 をインストールします。  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html) (英語版)にある『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing インストールアップグレードガイド Release 6.x』の「Web Conferencing のインストール」の章の「Cisco MCS Server へのオペレーティングシステムのインストール」および「Cisco MCS Server のネットワーク設定」の項に記載されている手順を実行します。

9. Audio Server バージョン 6.0 と他の Cisco Unified MeetingPlace コンポーネントに関する最新のサポートされるバージョンの組み合わせを確認します。  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products\\_device\\_support\\_tables\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_device_support_tables_list.html) (英語版)にある『互換性マトリクス: Cisco Unified MeetingPlace コンポーネント』を参照してください。
10. 必要に応じて、バックアップ済みの Web Conferencing データを復元し、Web Conferencing をインストールします。
  - a. Web Conferencing の復元実行ファイルを実行します (Web Conferencing サーバのクラスタを使用している場合、このタスクは各サーバで実行します)。P.19 の「Web Conferencing の復元」を参照してください。
  - b. 展開に共有外部データベースが含まれている場合は、そのデータベースを復元します。P.19 の「共有外部データベースの復元」を参照してください。
  - c. 展開にリモートの共有ストレージが含まれている場合は、共有ストレージ ロケーションを復元します。P.21 の「共有外部ストレージの復元」を参照してください。
  - d. Web Conferencing 6.0 をインストールします (Web Conferencing サーバのクラスタを使用している場合、このタスクは各サーバで実行します)。  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html) (英語版)にある『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing インストールアップグレードガイド Release 6.x』の「Web Conferencing のインストール」の章に記載されている手順を実行します。



(注) 復元実行ファイルを使用して Web Conferencing データを復元する場合、Web Conferencing 6.0 をインストールするときは、Hostname of MeetingPlace Server パラメータに、タスク 4.h で書き留めた Audio Server の値を正確に入力します。

- e. Web Conferencing クラスタのメンバーで実行されたバックアップからサーバが復元されたら、共有ストレージの認証情報を設定します (Web Conferencing サーバのクラスタを使用している場合、このタスクは各サーバで実行します)。P.21 の「共有ストレージの認証の設定」を参照してください。
  - f. 共有ストレージが設定されているバックアップからスタンドアロン サーバを復元した場合や、共有ストレージが設定されていないサーバに共有ストレージを設定する場合は、P.22 の「共有ストレージの設定」を参照してください。
11. 新規の 6.0 Web Conferencing サーバを一時的に元のサーバと同時に実行する場合は、次の操作を行います。
    - 元の Web Conferencing サーバのカスタマイゼーションと設定を新規のサーバへ手動で移行します。
    - ユーザに対して、特定の日付を過ぎると元のサーバが稼働中止になること、および今後は新しい会議を新規のサーバでスケジュールする必要があることを通知します。ただし、ユーザは引き続き、元のサーバでスケジュール済みの会議と記録にアクセスできます。
  12. Web Conferencing のファイル、設定、およびホスト名を新規の 6.0 サーバへ移行した後も、音声と Web が同期された記録へのユーザアクセスを保持する場合: 既存の音声と Web が同期された記録にユーザがアクセスできるようにするには、新規の 6.0 サーバの Welcome (ようこそ) ページにカスタム URL を作成し、この記録にアクセスしようとするユーザを元のサーバに誘導することをお勧めします (たとえば、「過去に記録された会議にアクセスするにはここをクリックしてください」)。  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products\\_installation\\_and\\_configuration\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html) (英語版)にある『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーションガイド Release 6.x』の「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の設定」の章の「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing テンプレートについて」の項を参照してください。

13. 必要に応じて、Network Backup Gateway をインストールおよび復元します。
  - a. Network Backup Gateway をインストールするには、  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html) (英語版)にある『Cisco MeetingPlace Network Backup Gateway アドミニストレータ ガイド Release 5.2 および5.3』の「Cisco Unified MeetingPlace Network Backup Gateway のインストールと設定」の章を参照してください。
  - b. タスク 4.a でバックアップした Cisco Unified MeetingPlace Network Backup Gateway ファイルを復元します。
14. 必要に応じて、H.323/SIP Gateway をインストールおよび復元します。
  - a. H.323/SIP Gateway をインストールするには、  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html) (英語版)にある『Cisco MeetingPlace H.323/SIP IP Gateway Software アドミニストレータ ガイド Release 5.2.1』の「Cisco Unified MeetingPlace H.323/SIP IP Gateway Software Release 5.2.1 のインストール」の章を参照してください。
  - b. タスク 4.b でバックアップしたファイルを復元します。
15. 必要に応じて、Directory Services をインストールおよび復元します。
  - a. Directory Services をインストールするには、  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html) (英語版)にある『Cisco Unified MeetingPlace Directory Services アドミニストレーション ガイド Release 5.4』の「Cisco Unified MeetingPlace Directory Services のインストール」の章を参照してください。
  - b. タスク 4.c でバックアップしたファイルを復元します。
16. 必要に応じて、SMTP E-Mail Gateway をインストールおよび復元します。
  - a. SMTP E-Mail Gateway をインストールするには、  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html) (英語版)にある『Cisco Unified MeetingPlace SMTP E-Mail Gateway アドミニストレーション ガイド Release 5.4』の「Cisco Unified MeetingPlace SMTP E-Mail Gateway のインストール」の章を参照してください。
  - b. タスク 4.d でバックアップしたファイルを復元します。
17. 必要に応じて、Cisco Unified MeetingPlace for Outlook をインストールおよび復元します。P.23 の「Cisco Unified MeetingPlace for Outlook のインストールおよび復元」を参照してください。
18. 必要に応じて、Cisco Unified MeetingPlace for Lotus Notes をインストールおよび復元します。P.24 の「Cisco Unified MeetingPlace for Lotus Notes のインストールおよび復元」を参照してください。
19. 必要に応じて、Cisco Unified MeetingPlace Video Integration をインストールおよび復元します。
  - a. Video Integration をインストールするには、  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html) (英語版)にある『Cisco Unified MeetingPlace Video Integration アドミニストレーション ガイド Release 6.x』の「Cisco Unified MeetingPlace Video Integration のインストール」の章を参照してください。
  - b. 必要に応じて、タスク 4.g でバックアップした SSL 証明書を復元し、復元された SSL 証明書を使用するように新規インストールを設定します。
20. 必要に応じて、Cisco Unified MeetingPlace for Jabber をアップグレードします。  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html) にある『Installation and Administration Guide for Cisco Unified MeetingPlace for Jabber Release 6.x』の「Installing or Upgrading Cisco Unified MeetingPlace for Jabber」の章を参照してください。

## Cisco Unified MeetingPlace Audio Server Release 6.0 へのアップグレード

最初に、Audio Server ソフトウェアをダウンロードし、Cisco Unified MeetingPlace 8100 シリーズ サーバでソフトウェアをアップグレードするときに使用される CD を作成します。

### Audio Server Release 6.0 ソフトウェアをダウンロードして CD を作成する

- 
- ステップ 1** <http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> にある Cisco Software Center Web サイトに移動します。
- ステップ 2** Cisco Unified MeetingPlace セクションで、**MeetingPlace Server** リンクをクリックします。
- ステップ 3** Audio Server の現行バージョンのファイルをダウンロードします。
- ステップ 4** 市販されている任意の CD-ROM 書き込みプログラムを使用して、ISO イメージを CD に書き込みます。イメージを CD に書き込むときは、速度が 8x を超えないようにします。
- ステップ 5** CD への書き込みが完了したら、\UPDATE\


---

Cisco Unified MeetingPlace 8100 シリーズ Audio Server のアップグレード手順については、[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html) (英語版) にある『Cisco Unified MeetingPlace Audio Server インストール アップグレード ガイド Release 6.x』の「Cisco Unified MeetingPlace Audio Server ソフトウェアのアップグレード」の章を参照してください。

## Web Conferencing の手動バックアップ

既存の Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing インストールをアップグレードする前に、重要なアプリケーション ファイルをバックアップする必要があります。バックアップ ファイルを使用すると、アップグレードやインストールに失敗した場合に、以前の環境に戻すことができます。

次のバックアップ タスクは、すべてのアップグレード シナリオ (フル アップグレードおよびパッチ アップグレード) に必要です。

- [MPWEB データベースと MPWEB-Slave データベースのバックアップ \(P.14\)](#)
- [重要な Web Conferencing アプリケーション ファイルのバックアップ \(P.15\)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace レジストリ情報のバックアップ \(P.16\)](#)

### MPWEB データベースと MPWEB-Slave データベースのバックアップ

この項の手順では、Enterprise Manager を使用してデータベースをバックアップします。最初に MPWEB データベースをバックアップし、次に MPWEB-Slave データベースをバックアップします。

osql コマンドを使用するには、

[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products\\_installation\\_and\\_configuration\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html) (英語版) にある『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド』の付録「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing および SQL Server」を参照してください。

## MPWEB データベースと MPWEB-Slave データベースをバックアップする

- ステップ 1** Enterprise Manager を開きます。
- ステップ 2** データベース フォルダを展開します。
- ステップ 3** データベース名の MPWEB または MPWEB-Slave を右クリックし、**All Tasks > Backup Database** を選択します。

SQL Server Backup - MPWeb ウィンドウが表示されます。

- ステップ 4** バックアップ ファイルの作成先を指定し、**OK** をクリックしてバックアップ動作を開始します。

Backup Progress ウィンドウが表示され、バックアップ プロセスが完了すると閉じます。

- ステップ 5** [ステップ 1 ~ ステップ 4](#) を繰り返して、MPWEB-Slave-#### データベースをバックアップします。



- (注)** 複数の MPWEB-Slave データベースが表示された場合は、ロード バランシング クラスタが使用されています。このクラスタでは、複数の Web Conferencing サーバが連携して、データ会議のロード バランシングを実現します。クラスタ内のメンバーはすべて同じ MPWEB データベースを共有しますが、各メンバーは独自の MPWEB-Slave データベースを持ちます。有効なデータベースをすべてバックアップしてください。

- ステップ 6** [P.15 の「重要な Web Conferencing アプリケーション ファイルのバックアップ」](#)に進みます。

## 重要な Web Conferencing アプリケーション ファイルのバックアップ

Web Conferencing サーバのロード バランシング クラスタを使用している場合、この手順はクラスタ内の各サーバで実行します。

### 始める前に

[P.14 の「MPWEB データベースと MPWEB-Slave データベースのバックアップ」](#)を実行します。

## 重要な Web Conferencing アプリケーション ファイルをバックアップする

- ステップ 1** Explorer を開きます。
- ステップ 2** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing アプリケーションがインストールされているフォルダを参照します。
- ステップ 3** MPWeb フォルダを開きます。
- ステップ 4** Diagnostics フォルダと Meetings フォルダを除くすべてのフォルダをバックアップします。
- ステップ 5** [P.16 の「Cisco Unified MeetingPlace レジストリ情報のバックアップ」](#)に進みます。

## Cisco Unified MeetingPlace レジストリ情報のバックアップ

Web Conferencing サーバのロード バランシング クラスタを使用している場合、この手順はクラスタ内の各サーバで実行します。

### 始める前に

P.15 の「[重要な Web Conferencing アプリケーション ファイルのバックアップ](#)」を実行します。

### Cisco Unified MeetingPlace レジストリ情報をバックアップする

- 
- ステップ 1** Registry Editor を開きます。
  - ステップ 2** HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Latitude に移動して選択します。
  - ステップ 3** メニューバーから、**Registry > Export Registry File** を選択します。
  - ステップ 4** ファイルを保存します。



**ヒント** バックアップ ファイルを保存する場合は、バックアップの管理に役立つ情報を追加します。たとえば、フォルダ名に 5.4(70.0) と 6.0.x を含めると、そのフォルダには Release 6.0.(x) へ移行する前に作成された Release 5.4(70.0) のバックアップファイルが含まれていることがわかります。

- ステップ 5** すべてのバックアップ ファイルを、MCS サーバへの Windows 2003 オペレーティング システムのインストール後にアクセスできる安全な場所に保存します。
- 

## Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Backup Wizard を使用した Web Conferencing のバックアップ

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Backup Wizard は、Web Conferencing Release 5.3 または 5.4 の設定と会議情報を Windows 2003 オペレーティング システム上の Release 6.0 へ移行する実行可能ファイルを生成します。サーバの構成と設定を Release 6.0 へ移行する場合は、手動バックアップがすでに完了していても、この手順を実行する必要があります。Web Conferencing サーバのロード バランシング クラスタを使用している場合、この手順はクラスタ内の各サーバで実行します。



**(注)** 移行に失敗した場合、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Backup Wizard で生成された復元ファイルを使用して、Release 5.3 または 5.4 に戻すことはできません。元のリリースに戻す必要がある場合は、P.14 の「[Web Conferencing の手動バックアップ](#)」で作成した手動バックアップを使用する必要があります。

### Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Backup Wizard を使用して Web Conferencing をバックアップする

- 
- ステップ 1** 元の Web Conferencing サーバで、開いているアプリケーションがあればすべて終了します。

- ステップ 2** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing DVD を DVD-ROM ドライブに挿入し、CiscoUnifiedMeetingPlaceWebConferencingBackup.exe をダブルクリックします。
- ステップ 3** Start をクリックします。ウィザードによって、MCS オペレーティングシステムのアップグレード後に使用される復元ファイルが作成されます。
- ステップ 4** バックアップが完了したら、復元ファイルの場所を書き留め、OK をクリックします。
- ステップ 5** Close をクリックします。
- ステップ 6** 復元ファイルを、ステップ 4 で書き留めた場所から、新規バージョンのオペレーティングシステムのインストール後にアクセスできる外部の場所にコピーします。



- (注)** 元の Web Conferencing サーバを新規の Release 6.0 サーバと同時に動作させておく場合、復元ファイルを別の場所にコピーする必要はありません。この場合、設定を新規のサーバに復元するときは、ステップ 4 で書き留めた場所の URL を参照して、復元ファイルにアクセスします。

## 共有外部データベースのバックアップ

この項の手順では、Enterprise Manager を使用して、クラスタ内の複数の Web Conferencing サーバ間で共有されている MPWEB データベースをバックアップします。この手順は、データベースを新規のマシンへ移行する必要がある（たとえば、新規のデータベース サーバを含む Release 6.0 サーバのクラスタを、元のデータベース サーバにアクセスする Release 5.4 マシンと同時に実行する）場合で、データベースをまだバックアップしていないときに実行します。



- (注)** Web Conferencing Release 6.0 へ移行するために、MPWEB-Slave データベースをバックアップする必要はありません。

osql コマンドを使用するには、[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products\\_installation\\_and\\_configuration\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html) (英語版) にある『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーションガイド』の付録「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing および SQL Server」を参照してください。

### 共有外部データベースをバックアップする

- ステップ 1** データベース サーバで、Enterprise Manager を開きます。
- ステップ 2** データベース フォルダを展開します。
- ステップ 3** データベース名の MPWEB を右クリックし、All Tasks > Backup Database を選択します。

SQL Server Backup - MPWeb ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** バックアップ ファイルの作成先を指定し、OK をクリックしてバックアップ動作を開始します。

Backup Progress ウィンドウが表示され、バックアップ プロセスが完了すると閉じます。

**ステップ 5** データベースのバックアップ ファイルを、データベース サーバへの Windows 2003 オペレーティングシステムのインストール後にアクセスできる安全な場所に保存します。

## 共有または外部ストレージのバックアップ

各 Web Conferencing サーバ クラスタには、共通のストレージ ロケーションが必要です。共通のストレージ ロケーションには、クラスタ内のサーバのいずれかまたは別の (外部) マシンを指定できます。

この手順は、共有または外部ストレージを使用している状態で、ストレージを新規のマシンまたは場所へ移行する (たとえば、共有ストレージを含む Release 6.0 サーバのクラスタを、元の共有ストレージ ロケーションにアクセスする Release 5.4 マシンと同時に実行する) 場合に実行します。ストレージ ディレクトリが、デフォルトの <drive>:\Program Files\Cisco Systems\MPWEB\Meetings ディレクトリ内の Web Conferencing サーバのいずれかに存在する場合、Cisco Unified MeetingPlace Backup/Restore Wizard を実行すると、ストレージ ディレクトリが自動的にバックアップおよび復元されます。この場合、ストレージ ロケーションを手動でバックアップする必要はありません。

### 共有または外部ストレージをバックアップする

**ステップ 1** ストレージ フォルダを特定します (フォルダのパスには MPWeb\Meetings が含まれている場合があります)。フォルダの場所が不明な場合は、次の手順を実行します。

- a. Web ブラウザを開いて Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のホームページにアクセスします。
- b. システム管理者レベルのユーザ ID とパスワードを使用してサインインします。
- c. Admin、Web Server の順にクリックします。
- d. ページの「View」セクションで、共有ストレージを使用する Web サーバの名前をクリックします。Attachment Location パラメータに、ストレージ ロケーションが示されます。

**ステップ 2** ストレージ フォルダ内のすべてのファイルを 1 つの .zip ファイルに圧縮します。

**ステップ 3** 圧縮ファイルを、復元時にアクセスできる安全な場所に保存します。

**ステップ 4** ストレージ フォルダの元のパスを書き留めます。フォルダを復元するときは、ファイルを同じパスに解凍する必要があります。

## Web Conferencing の復元

Web Conferencing サーバのロード バランシング クラスタを使用している場合、この手順はクラスタ内の各サーバで実行します。

### Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Restore Wizard を使用して Web Conferencing を復元する

- 
- ステップ 1** 6.0 Web Conferencing サーバで、開いているアプリケーションがあればすべて終了します。
- ステップ 2** P.16 の「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Backup Wizard を使用して Web Conferencing をバックアップする」のステップ 4 でファイルをコピーした場所で、CiscoUnifiedMeetingPlaceWebConferencingRestore.exe を特定してダブルクリックします。
- ステップ 3** Start をクリックします。ウィザードによって、Web Conferencing のアップグレードに使用されるファイルが抽出および復元されます。
- ステップ 4** 復元が完了したら、OK、Close の順にクリックします。
- 

## 共有外部データベースの復元

この項のタスクは、外部データベース サーバを新規のマシンへ移行するために、共有外部データベースをバックアップした場合に実行します。

1. データベース サーバに、SQL Server 2000 および必要なすべての SQL Server サービス パックをインストールします。サービス パックの要件については、『Cisco Unified MeetingPlace Release 6.0 システム要件』を参照してください。このマニュアルは、[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html) (英語版) で入手できます。
2. バックアップ ファイルから MPWEB データベースを復元します。P.19 の「共有外部データベースを復元する」を実行します。



**(注)** Web Conferencing Release 6.0 サーバのデータベースを復元する場合、MPWEB-Slave データベースを復元する必要はありません。

---

### 共有外部データベースを復元する

- 
- ステップ 1** データベース サーバにログインします。



**(注)** データベース サーバにログインできない場合は、osql コマンドを含む SQL Server Client ツールが適切にインストールされた、ネットワーク上の Windows ベースのワークステーションまたはサーバにログインすると、SQL Server にリモートで接続できます。

---

- ステップ 2** データベースのバックアップ ファイルを、P.17 の「共有外部データベースをバックアップする」で保存した場所から、データベース サーバ上のディレクトリ (たとえば、C:\temp\mpweb.dat) にコピーします。

**ステップ 3** コマンド プロンプトにアクセスします。

Start > Run を選択し、cmd と入力します。

**ステップ 4** SA アカウントと適切なパスワードを指定した osql を使用して、SQL Server に接続します。

osql -U sa -S *servername* と入力します。 *servername* は Windows サーバ名です。

- SQL Server がローカルで動作している場合は、オプションの -S *servername* を省略できます。
- この SQL Server に SA として接続する権限がない場合は、データベースをバックアップするのに十分な権限を持つアカウントを使用して接続します。

**ステップ 5** MPWEB というデータベースがこのサーバに存在するかどうかを確認します。

select name from sysdatabases where name like 'MPWEB%' と入力し、go と入力します。

**ステップ 6** MPWEB データベースが存在する場合は、このデータベースを現在使用している Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サーバがないことを確認します。

**ステップ 7** (オプション)1 台以上の Cisco Unified MeetingPlace Web サーバがデータベースを使用している場合は、次の手順を実行します。

- a. 各サーバに管理者としてログインします。
- b. Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サービスを停止します。
- c. Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サービス、IIS Admin Service、および World Wide Web Publishing Service がすべて停止するまで待ちます。
- d. データベースをドロップするために、drop database MPWEB と入力し、go と入力します。

**ステップ 8** MPWEB データベースを SQL Server にインポートする前に、この MPWEB データベースに関連付けられているデータベース物理ファイルを検索します。

restore filelistonly from disk = '*fullyqualifiedpath*' と入力します。*fullyqualifiedpath* は [ステップ 2](#) でファイルをコピーした場所です。次に、go と入力します。

**ステップ 9** このデータベースを復元する SQL Server のインストール フォルダを確認し、SQL Server マスターデータベースの物理的な場所を確認します。

sp\_helpfile master と入力し、go と入力します。



**(注)** MPWEB データベースをディスク上の別の場所に復元する特別な理由 (パフォーマンスとチューニング、またはデータ リカバリのためなど) がない限り、MPWEB データベースは、この SQL Server がインストールされているデフォルトの Data フォルダに復元することをお勧めします。

**ステップ 10** データベースを復元し、データベース物理ファイルを正しい場所に移動します。

restore database MPWEB from disk = '*fullyqualifiedpath*' with move 'MPWEBData' to 'D:\MSSQLServer\Data\MPWEB.MDF', move 'MPWEBLog' to 'D:\MSSQLServer\Data\MPWEB.LDF' と入力し、go と入力します。



(注) データベースを正常に復元するには **with move** 句を使用する必要があります。これは、データベースのバックアップ ファイルには、この SQL Server のインストールに対して無効な物理ファイルの場所が含まれているためです。

**ステップ 11** 情報メッセージを参照して、操作が成功したことを確認します。

**ステップ 12** `osql` を終了するには、`exit` と入力します。

## 共有外部ストレージの復元

この項の手順は、共有外部ストレージを新規のマシンへ移行するために、そのストレージをバックアップした場合に実行します。

### 共有外部ストレージを復元する

**ステップ 1** 新規の共有ストレージ サーバにログインします。

**ステップ 2** P.18 の「共有または外部ストレージをバックアップする」で書き留めた元の共有ストレージのパスと同じパスを使用して、ストレージ フォルダを作成します。

**ステップ 3** ストレージ フォルダを共有します。手順については、Microsoft のヘルプを参照してください。

**ステップ 4** 共有ストレージのバックアップ圧縮ファイルを、P.18 の「共有または外部ストレージをバックアップする」で保存した場所から共有ストレージ サーバにコピーします。

**ステップ 5** バックアップ ファイルを共有ストレージ フォルダに解凍します。

## 共有ストレージの認証の設定

この項の手順は、Web Conferencing クラスタのメンバーで実行されたバックアップからサーバが復元された場合に使用します。この場合、共有ストレージはすでに設定され、有効になっています。ただし、サーバには共有ストレージへのアクセスに必要なアカウント情報が設定されていません。

この手順は、クラスタ内の各サーバで実行します。

### 共有ストレージの認証を設定する

**ステップ 1** Web Conferencing サーバで、ブラウザを開いて `http://localhost:8002` を参照します。サーバでこの URL にアクセスすると、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing に技術者として自動的にサインインされます。

**ステップ 2** Admin、Shared Storage の順にクリックします。

- ステップ 3** 適切なフィールドに、共有ストレージ ロケーションへのアクセスに使用される Windows アカウントのドメイン名、ユーザ名、およびパスワードを入力します。アカウントがローカル アカウントの場合は、Domain フィールドにマシン名を入力します。



(注) すべての Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サービスは、このステップで選択されたアカウント「としてログイン」するように設定されます。

- ステップ 4** Confirm Password フィールドにパスワードを再入力します。

- ステップ 5** Save Changes をクリックします。

- ステップ 6** 変更を有効にするには、Reboot Server をクリックし、OK をクリックしてリポートを確定します。サーバがシャットダウンしてから再起動します。

## 共有ストレージの設定

この項の手順は、サーバをバックアップおよび復元する前に共有ストレージを設定しなかった場合や、共有ストレージがスタンドアロンの（クラスタ化ではない）Web Conferencing サーバ用に設定されている場合で、共有ストレージを設定するときに使用します。

### 共有ストレージを設定する

- ステップ 1** Web ブラウザを開いて Web Conferencing のホームページにアクセスします。

- ステップ 2** システム管理者レベルのユーザ ID とパスワードを使用してサインインします。

- ステップ 3** Admin、Shared Storage の順にクリックします。

- ステップ 4** Enabled では、Yes をクリックします。

- ステップ 5** Shared Storage Path には、共有ストレージ ロケーションのパスを入力します。

- ステップ 6** Content Cache Size には、ローカル サーバでコンテンツをキャッシュするために使用するディスク領域全体のパーセンテージとして、0 ~ 100 の値を入力します。

- ステップ 7** 適切なフィールドに、共有ストレージ ロケーションへのアクセスに使用される Windows アカウントのドメイン名、ユーザ名、およびパスワードを入力します。アカウントがローカル アカウントの場合は、Domain フィールドにマシン名を入力します。



(注) すべての Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サービスは、このステップで選択されたアカウント「としてログイン」するように設定されます。

- ステップ 8** Confirm Password フィールドにパスワードを再入力します。

**ステップ 9** **Save Changes** をクリックします。

**ステップ 10** 変更を有効にするには、**Reboot Server** をクリックし、**OK** をクリックしてリブートを確定します。サーバがシャットダウンしてから再起動します。

## Cisco Unified MeetingPlace for Outlook のインストールおよび復元

次の手順は、Cisco Unified MeetingPlace for Outlook Release 6.0 をインストールし、旧リリースからファイルを復元するときに使用します。



**(注)** 以前のインストールからファイルと設定を復元するには、Cisco Unified MeetingPlace for Outlook サーバに、元のサーバと同じ IP アドレスを設定する必要があります。

### Cisco Unified MeetingPlace for Outlook をインストールおよび復元する

**ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace for Outlook サーバが、タスク 4.e で書き留めた Windows ドメインと同じドメインに参加していることを確認します。

**ステップ 2** Cisco Unified MeetingPlace for Outlook サーバで、タスク 4.e で書き留めた Windows 管理者アカウントにローカルの管理者権限を与えます。

**ステップ 3** タスク 4.e で書き留めた Windows 管理者アカウントを使用して、サーバにサインオンします。

**ステップ 4** Windows 管理者アカウントに、サービスとしてログインする権限を与えます。

- a. Windows の Start メニューから、**Settings > Control Panel > Administrative Tools > Local Security Policy** を選択します。
- b. **Local Policies** をダブルクリックします。
- c. **User Rights Assignment** をダブルクリックします。
- d. **Log On As A Service** をダブルクリックします。
- e. **Add** をクリックし、アカウント名を特定してダブルクリックし、**OK** をクリックします。
- f. **OK** をクリックして、Local Security Policy Setting ウィンドウを閉じます。

**ステップ 5** Windows Service Manager で、Task Scheduler サービスのスタートアップの種類を Disabled から Automatic に変更します。

- a. Windows の Start メニューから、**Settings > Control Panel > Administrative Tools > Services** を選択します。
- b. **Task Scheduler** を右クリックし、**Properties** を選択します。
- c. Startup Type を Automatic に設定します。
- d. **OK** をクリックします。

**ステップ 6** サポートされているバージョンの Microsoft Outlook をインストールします。その際は必ず、インストールの詳細オプションを選択し、インストールする Collaboration Data Objects ( CDO ) コンポーネントを追加します。

**ステップ 7** Outlook クライアントを開き、電子メールを送信できることを確認します。

**ステップ 8** Cisco Unified MeetingPlace for Outlook Release 6.0 をインストールおよび設定します。Cisco Unified MeetingPlace for Outlook をインストールするには、  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html) ( 英語版 ) にある『Cisco Unified MeetingPlace for Microsoft Outlook アドミニストレーション ガイド Release 6.x』の「Cisco Unified MeetingPlace for Outlook のインストール」の章を参照してください。



**(注)** Cisco Unified MeetingPlace for Outlook をインストールおよび復元する場合は、旧リリースの Cisco Unified MeetingPlace for Outlook をインストールするために最初に使用された Windows アカウントと同じアカウントを使用して、サーバにサインオンする必要があります。また、旧リリース用にサーバで設定された Exchange メールボックスを開くように Outlook を設定する必要もあります。

**ステップ 9** タスク 4.e でバックアップしたファイルを復元します。

## Cisco Unified MeetingPlace for Lotus Notes のインストールおよび復元

### Cisco Unified MeetingPlace for Lotus Notes をインストールおよび復元する

**ステップ 1** サポートされているリリースの Domino サーバと Lotus Notes クライアントを現在使用していることを確認します。システム要件については、  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html) ( 英語版 ) にある『Cisco Unified MeetingPlace システム要件』を参照してください。

**ステップ 2** Cisco Unified MeetingPlace for Lotus Notes サーバに、サポートされているバージョンの Lotus Notes クライアントをインストールします。

**ステップ 3** タスク 4.f でバックアップした user.id ファイルを、Cisco Unified MeetingPlace for Lotus Notes サーバにある Lotus Notes クライアントの Data ディレクトリ ( デフォルトは <drive>:\Program Files\Lotus\Notes\Data ) にコピーします。

**ステップ 4** Cisco Unified MeetingPlace for Lotus Notes サーバで Lotus Notes クライアントを実行し、ステップ 3 でサーバにコピーした user.id ファイルの場所を参照します。クライアントによって notes.ini ファイルが作成されます。

**ステップ 5** Cisco Unified MeetingPlace for Lotus Notes サーバで Cisco Unified MeetingPlace for Lotus Notes Release 5.4 のインストール実行ファイル ( Setup.exe ) を実行します。

**ステップ 6** タスク 4.f でバックアップした notification.tpl ファイルを Cisco Unified MeetingPlace for Lotus Notes ディレクトリにコピーします。

**ステップ 7** Domino サーバを停止し、Domino サーバの Data フォルダから次のファイルを削除します。

- mpsa.ntf
- mpsa.nsf
- mpnotes 5.4 メール テンプレート

**ステップ 8** Cisco Unified MeetingPlace for Lotus Notes Release 6.0 の実行可能ファイル (Setup.exe) を実行し、InstallShield ウィザードに従ってアップグレードします。すべてのデフォルトをそのまま使用します。インストーラによって、現在の Cisco Unified MeetingPlace for Lotus Notes コンポーネントが自動的にアップグレードされます。

**ステップ 9** [http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html) にある『Administration Guide for Cisco Unified MeetingPlace for IBM Lotus Notes Release 6.x』の「Cisco Unified MeetingPlace for Lotus Notes Installation and Configuration」の章の「How to Complete Cisco Unified MeetingPlace for Lotus Notes Post-Installation Tasks」の項に記載されているインストール後のタスクを実行します。

## SMA-1S Web Conferencing 展開を移行するためのタスク リスト

SMA-1S は、Release 6.0 ではサポートされなくなりました。Release 6.0 SMA-2S 構成へ移行するには、少なくとも 2 台の Cisco MCS サーバが必要です。次のタスク リストでは、元の SMA-1S サーバ (または代替マシン) を新規の内部 Web Conferencing サーバとして使用し、追加の Cisco MCS サーバを新規の外部 Web Conferencing サーバとして追加します。



**注意**

移行プロセスは複雑であるため、必ず慎重にマニュアルの指示に従ってください。



**(注)**

Terminal Services を使用して Release 6.0 へ移行することはサポートされていません。

1. Audio Server をアップグレードします。P.14 の「Cisco Unified MeetingPlace Audio Server Release 6.0 へのアップグレード」を参照してください。
2. 旧リリース (5.3 または 5.4) に戻す場合に備えて、SMA-1S サーバを手動でバックアップします。このタスクは省略可能ですが、実行することを強くお勧めします。P.14 の「Web Conferencing の手動バックアップ」を参照してください。
3. SMA-1S サーバで、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Backup Wizard を実行して、Web Conferencing Release 5.3 または 5.4 の設定と会議情報を Windows 2003 オペレーティング システム上の Release 6.0 へ移行する実行可能ファイルを生成します (Web Conferencing サーバのクラスタを使用している場合、このタスクは各サーバで実行します)。P.16 の「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Backup Wizard を使用した Web Conferencing のバックアップ」を参照してください。

4. SMA-1S サーバに（または必要に応じて代替ハードウェアに）、Windows 2003 をインストールします。その際、ネットワークを設定するときは、最初の NIC に最初に割り当てられたホスト名および IP アドレスを、プライマリ ホスト名および IP アドレスとして使用します。  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html)（英語版）にある『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing インストールアップグレードガイド Release 6.x』の「Web Conferencing のインストール」の章の「Cisco MCS Server へのオペレーティングシステムのインストール」および「Cisco MCS Server のネットワーク設定」の項に記載されている手順を実行します。
5. SMA-1S サーバで（または必要に応じて代替ハードウェアで）、バックアップ済みの Web Conferencing データを復元し、Web Conferencing をインストールします。
  - a. Web Conferencing の復元実行ファイルを実行します（Web Conferencing サーバのクラスタを使用している場合、このタスクは各サーバで実行します）。P.19 の「Web Conferencing の復元」を参照してください。
  - b. Web Conferencing 6.0 をインストールし、サーバを内部として設定します。  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html)（英語版）にある『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing インストールアップグレードガイド Release 6.x』の「Web Conferencing のインストール」の章に記載されている手順を実行します。
6. 新規の外部 Web Conferencing サーバに、Windows 2003 をインストールします。その際、ネットワークを設定するときは、最初の NIC のホスト名および IP アドレスを、プライマリ ホスト名および IP アドレスとして使用します。  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html)（英語版）にある『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing インストールアップグレードガイド Release 6.x』の「Web Conferencing のインストール」の章の「Cisco MCS Server へのオペレーティングシステムのインストール」および「Cisco MCS Server のネットワーク設定」の項に記載されている手順を実行します。
7. 新規の外部 Web Conferencing サーバで、バックアップ済みの Web Conferencing データを復元し、Web Conferencing をインストールします。
  - a. Web Conferencing の復元実行ファイルを実行します（Web Conferencing サーバのクラスタを使用している場合、このタスクは各サーバで実行します）。P.19 の「Web Conferencing の復元」を参照してください。
  - b. Web Conferencing 6.0 をインストールし、サーバを外部として設定します。  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html)（英語版）にある『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing インストールアップグレードガイド Release 6.x』の「Web Conferencing のインストール」の章に記載されている手順を実行します。
8. 内部 Web Conferencing サーバで、内部から外部への会議のリダイレクションを設定します。  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products\\_installation\\_and\\_configuration\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html)（英語版）にある『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーションガイド Release 6.x』の「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing への外部アクセスの設定」の章の「SMA-2S 展開の設定方法」の項に記載されている「外部会議のリダイレクションを設定する」の手順を実行します。

## SMA-2S Web Conferencing 展開を移行するためのタスク リスト



### 注意

移行プロセスは複雑であるため、必ず慎重にマニュアルの指示に従ってください。



### (注)

Terminal Services を使用して Release 6.0 へ移行することはサポートされていません。

1. Audio Server をアップグレードします。P.14 の「Cisco Unified MeetingPlace Audio Server Release 6.0 へのアップグレード」を参照してください。
2. 旧リリース (5.3 または 5.4) に戻す場合に備えて、各サーバで Web Conferencing を手動でバックアップします。このタスクは省略可能ですが、実行することを強くお勧めします。P.14 の「Web Conferencing の手動バックアップ」を参照してください。
3. SMA-2S 内部サーバで、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Backup Wizard を実行して、Web Conferencing Release 5.3 または 5.4 の設定と会議情報を Windows 2003 オペレーティングシステム上の Release 6.0 へ移行する実行可能ファイルを生成します (Web Conferencing サーバのクラスタを使用している場合、このタスクは各サーバで実行します)。P.16 の「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Backup Wizard を使用した Web Conferencing のバックアップ」を参照してください。
4. SMA-2S 内部サーバに、Windows 2003 をインストールします。その際、ネットワークを設定するときは、最初の NIC に最初に割り当てられたホスト名および IP アドレスを、プライマリ ホスト名および IP アドレスとして使用します。  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html) (英語版) にある『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing インストール アップグレード ガイド Release 6.x』の「Web Conferencing のインストール」の章の「Cisco MCS Server へのオペレーティングシステムのインストール」および「Cisco MCS Server のネットワーク設定」の項に記載されている手順を実行します。
5. SMA-2S 内部サーバで、バックアップ済みの Web Conferencing データを復元し、Web Conferencing をインストールします。
  - a. Web Conferencing の復元実行ファイルを実行します (Web Conferencing サーバのクラスタを使用している場合、このタスクは各サーバで実行します)。P.19 の「Web Conferencing の復元」を参照してください。
  - b. Web Conferencing 6.0 をインストールし、サーバを内部として設定します。  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html) (英語版) にある『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing インストール アップグレード ガイド Release 6.x』の「Web Conferencing のインストール」の章に記載されている手順を実行します。
6. SMA-2S 外部サーバで、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Backup Wizard を実行して、Web Conferencing Release 5.3 または 5.4 の設定と会議情報を Windows 2003 オペレーティングシステム上の Release 6.0 へ移行する実行可能ファイルを生成します (Web Conferencing サーバのクラスタを使用している場合、このタスクは各サーバで実行します)。P.16 の「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Backup Wizard を使用した Web Conferencing のバックアップ」を参照してください。

7. SMA-2S 外部サーバに、Windows 2003 をインストールします。その際、ネットワークを設定するときは、最初の NIC に最初に割り当てられたホスト名および IP アドレスを、プライマリ ホスト名および IP アドレスとして使用します。  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html) ( 英語版 ) にある『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing インストレーション アップグレード ガイド Release 6.x』の「Web Conferencing のインストール」の章の「Cisco MCS Server へのオペレーティング システムのインストール」および「Cisco MCS Server のネットワーク設定」の項に記載されている手順を実行します。
8. SMA-2S 外部サーバで、バックアップ済みの Web Conferencing データを復元し、Web Conferencing をインストールします。
  - a. Web Conferencing の復元実行ファイルを実行します ( Web Conferencing サーバのクラスタを使用している場合、このタスクは各サーバで実行します )。P.19 の「Web Conferencing の復元」を参照してください。
  - b. Web Conferencing 6.0 をインストールし、サーバを外部として設定します。  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html) ( 英語版 ) にある『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing インストレーション アップグレード ガイド Release 6.x』の「Web Conferencing のインストール」の章に記載されている手順を実行します。



(注)

SMA-2S の場合は、内部から外部へのリダイレクションを設定する必要はありません。これは、設定がバックアップから自動的に復元されるためです。

## 制限と制約

### 会議の添付とユーザ プロファイル

添付を含む会議がスケジュールされると、ユーザ プロファイルの Include Attachments 属性が No( 会議通知で添付を受信しない ) に設定されている場合でも、ユーザは会議の電子メール通知で添付を受信します。

ユーザ プロファイルの Include Attachments 属性には、MeetingTime の Configure タブにある Receiving Notifications でアクセスできます。

## 警告

この項では、シビルティ 1、2、および 3 の警告を示します。

Cisco Unified MeetingPlace Audio Server バージョン 6.0(0.25) の最新の警告のほか、任意のリリースに関する任意のシビルティの警告を検索するには、オンライン ツールの Bug Toolkit を使用します。このツールを使用すると、お客様は各自のニーズに応じて障害について問い合わせることができます。Bug Toolkit は、[http://www.cisco.com/cgi-bin/Support/Bugtool/launch\\_bugtool.pl](http://www.cisco.com/cgi-bin/Support/Bugtool/launch_bugtool.pl) で入手できます。Bug Toolkit の使用方法については、P.31 の「Bug Toolkit の使用方法」を参照してください。



(注) Bug Toolkit にアクセスするには、Cisco.com に登録ユーザとしてログインする必要があります。

この項では、Audio Server Release 6.0(0.25) および MeetingTime Release 6.0(0.23) のみの警告について説明します。旧バージョンの Audio Server および MeetingTime の警告については、該当するバージョンのリリース ノートを参照してください。Audio Server の全バージョンのリリース ノートは、[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_release\\_notes\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_release_notes_list.html) で入手できます。

## 未解決の警告 : Audio Server Release 6.0(0.25) および MeetingTime Release 6.0(0.23)

Bug Toolkit で警告の最新情報を表示するには、Caveat Number カラム内のリンクをクリックします (警告は、シビルティ順、コンポーネント順、警告番号順という順序で表示されます)。

表 1 Cisco Unified MeetingPlace Audio Server 6.0(0.25) および MeetingTime 6.0(0.23) の未解決の警告

警告番号	シビルティ	コンポーネント	説明
<a href="#">CSCsh94362</a>	2	mp-server	MPagent crashes when attaching 5.3 to 6.0 audio server
<a href="#">CSCsi41330</a>	2	mp-server	Incoming IP digits not processed correctly on Audio Server
<a href="#">CSCsi72886</a>	2	mp-server	Server stops transmitting to gateway unit under load test
<a href="#">CSCsi29926</a>	3	mp-server	MeetingPlace logs need to be cleaned up for continuous meetings
<a href="#">CSCsi34647</a>	3	mp-server	Send if meeting change is disable but notification is still being sent
<a href="#">CSCsi47457</a>	3	mp-server	Meeting ID is not recognized when attending early
<a href="#">CSCsi60325</a>	3	mp-server	Video users not started in waiting room if video user dialed in first
<a href="#">CSCsi65892</a>	3	vui	Attend meeting past guard time (3 minutes)

## 解決済みの警告: Audio Server Release 6.0(0.25) および MeetingTime Release 6.0(0.23)

Bug Toolkit で警告の最新情報を表示するには、Caveat Number カラム内のリンクをクリックします (警告は、シビラティ順、コンポーネント順、警告番号順という順序で表示されます)。

表 2 Cisco Unified MeetingPlace Audio Server 6.0(0.25) および MeetingTime 6.0(0.23) の解決済みの警告

警告番号	シビラティ	コンポーネント	説明
<a href="#">CSCsg98082</a>	1	mp-server	Conference Scheduler crashes under RSNA load
<a href="#">CSCsh83181</a>	1	mp-server	VUI crashes during setup of a reservationless meeting
<a href="#">CSCsi47467</a>	1	mp-server	Server stops responding when MSM ends and reservationless mtg scheduled
<a href="#">CSCsi66593</a>	1	mp-server	VUI crash if CSCse65319 applied and insufficient ports to sched meeting
<a href="#">CSCsg29506</a>	2	mp-server	Flex Menus - get profile state bypasses expired passwords.
<a href="#">CSCsh15930</a>	2	mp-server	Remote Server part entry fails with memory allocation error
<a href="#">CSCsh36649</a>	2	mp-server	Audio server upgraded to 5.4 version crashes with ENOMEM errors
<a href="#">CSCsh44073</a>	2	mp-server	Stop using RSH
<a href="#">CSCsh44155</a>	2	mp-server	timeslot errors in Audio server
<a href="#">CSCsh50193</a>	2	mp-server	Minor alarm, users cannot attend
<a href="#">CSCsh52670</a>	2	mp-server	smart blade low in available timeslots
<a href="#">CSCsi31364</a>	2	mp-server	Reservationless mtg does not extend when recorded
<a href="#">CSCsi41330</a>	2	mp-server	Incoming IP digits not processed correctly on Audio Server
<a href="#">CSCsi61373</a>	2	mp-server	Glare condition causes RNA/stuck ports
<a href="#">CSCsi12901</a>	3	gwsim	Web scheduling current time is one hour behind after DST change
<a href="#">CSCsg97838</a>	3	meetingtime	Allow Internet Access not correct in sched details or review tab
<a href="#">CSCsh71737</a>	3	meetingtime	Group Import sets home server to zero
<a href="#">CSCsi27765</a>	3	meetingtime	Mtgtime does not allow magic server configuration
<a href="#">CSCsf31553</a>	3	mp-server	Cptrace -C Delete by xxxx does not reflect real user who deleted mtg
<a href="#">CSCsg57143</a>	3	mp-server	Shadow server fails DB login after network connection lost
<a href="#">CSCsg66104</a>	3	mp-server	System restarted when a report was run
<a href="#">CSCsg80801</a>	3	mp-server	Expired profile password change on a Reservationless system did not work
<a href="#">CSCsg93832</a>	3	mp-server	Video parties dropped if no audio join before disc empty port time
<a href="#">CSCsh23836</a>	3	mp-server	Cannot start Immediate meeting with reservationless=NO and outdial=NO
<a href="#">CSCsh23883</a>	3	mp-server	Cannot add password in Reservationless meeting with password=Yes
<a href="#">CSCsh37617</a>	3	mp-server	Web Server enabled on MA Blade
<a href="#">CSCsh47085</a>	3	mp-server	Remove extra entries from vpunit .rhosts file
<a href="#">CSCsh50834</a>	3	mp-server	server restarts when Web part leaves conf during reserved sched request
<a href="#">CSCsh51786</a>	3	mp-server	Meeting events not sent to breakout rooms
<a href="#">CSCsh62976</a>	3	mp-server	Raima error -24 (-24) upon sharing/unsharing
<a href="#">CSCsh63010</a>	3	mp-server	Error When Attempting to Change Announcement Options
<a href="#">CSCsh71034</a>	3	mp-server	Return meeting ID for try-before-buy request
<a href="#">CSCsh77914</a>	3	mp-server	Create new language pack CD image
<a href="#">CSCsh94995</a>	3	mp-server	Reservationless meeting persists if no hangup received
<a href="#">CSCsi07705</a>	3	mp-server	T1 PRI configuration limitation
<a href="#">CSCsi07851</a>	3	mp-server	ERC_TOOMANYPORTS when mtg rescheduled with same number of ports
<a href="#">CSCsi50306</a>	3	mp-server	Reservationless mtg not on MtgTime whiteboard when initiated from phone.

## Bug Toolkit の使用方法

Bug Toolkit にアクセスするには、インターネット接続、Web ブラウザ、および Cisco.com のユーザ ID とパスワードが必要です。Bug Toolkit の使用方法の詳細については、任意の Bug Toolkit ウィンドウで Help をクリックしてください。

### Bug Toolkit を使用する

**ステップ 1** Web ブラウザを開いて [http://www.cisco.com/cgi-bin/Support/Bugtool/launch\\_bugtool.pl](http://www.cisco.com/cgi-bin/Support/Bugtool/launch_bugtool.pl) に移動します。

**ステップ 2** Launch Bug Toolkit リンクをクリックします。

**ステップ 3** 特定の警告に関する情報を検索するには、Enter Known Bug ID フィールドに ID 番号を入力します。

Cisco Unified MeetingPlace コンポーネントの警告をすべて表示するには、「Search for Bugs in Other Cisco Software and Hardware Products」セクションに移動し、Product Name フィールドに `meetingplace` と入力します。

**ステップ 4** リストで、Cisco Unified MeetingPlace を選択し、Next をクリックします。

**ステップ 5** Cisco Unified MeetingPlace 検索ページで、検索結果を絞り込むためのオプションを設定します。次に示す使用可能なオプションの一部またはすべてを選択します。

- a. 該当する Cisco Unified MeetingPlace バージョンを選択します。
  - メジャー リリースのメジャー バージョン(たとえば、5.3)を選択します。メジャー リリースには、重要な新機能、機能拡張、アーキテクチャの変更、バグフィックス、またはそのすべてが含まれています。
  - 詳細を表示するには、リビジョンを選択します。リビジョン(メンテナンス)リリースには、主として、特定の問題に対するバグフィックスが含まれていますが、新機能や機能拡張が含まれている場合もあります。
- b. 該当する機能またはコンポーネントを選択します。Available リストから選択し、Add をクリックして選択内容を Limit Search To リストに配置します。
- c. 警告のタイトルと説明を検索するためのキーワードを入力します。



**(注)** 問い合わせの条件をあまり絞り込まないようにするには、メジャー バージョンまたはリビジョン、機能またはコンポーネント、およびキーワード オプションで、ワイルドカードの All を使用します。

- d. 適切な詳細オプションを選択します。
  - Bug Severity : デフォルトでは、シビラティ 1 ~ 3 が指定されています。
  - Bug Status Group : 解決済みの警告を検索する場合は、Fixed チェックボックスをオンにします。
  - Release Note Enclosure : デフォルトでは、Valid Release Note Enclosure が指定されています。

**ステップ 6** Next をクリックします。Bug Toolkit が警告のリストを返します。



(注) 結果を変更するには、異なる条件を使用して、別の問い合わせを行います。また、問い合わせの内容を保存して、後で使用することもできます。

## トラブルシューティング情報

Cisco Unified MeetingPlace Audio Server のトラブルシューティングについては、  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod\\_maintenance\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_maintenance_guides_list.html)( 英語版 )にある『Cisco Unified MeetingPlace Audio Server アドミニストレーションガイド Release 6.x』を参照してください。

## 技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン

技術情報の入手、サポートの利用、技術情報に関するフィードバックの提供、セキュリティ ガイドライン、推奨するエイリアスおよび一般的なシスコのマニュアルに関する情報は、月刊の『What's New in Cisco Product Documentation』を参照してください。ここでは、新規および改訂版のシスコの技術マニュアルもすべて記載されています。次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

CCVP, the Cisco logo, and the Cisco Square Bridge logo are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn is a service mark of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, Networking Academy, Network Registrar, Packet, PIX, ProConnect, ScriptShare, SMARTnet, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0705R)

このドキュメントで使用しているインターネット プロトコル (IP) アドレスは、実在のアドレスではありません。ドキュメント中で示される例、コマンドの画面出力、および図は、いずれも視覚的な説明のみを目的としています。実在する IP アドレスが例示されていた場合、それらは意図して使用したものではありません。

Copyright © 2007 Cisco Systems, Inc.  
 All rights reserved.

お問い合わせは、購入された各代理店へご連絡ください。

シスコシステムズでは以下のURLで最新の日本語マニュアルを公開しております。  
本書とあわせてご利用ください。

Cisco.com 日本語サイト  
[http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual\\_j/](http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/)

日本語マニュアルの購入を希望される方は、以下のURLからお申し込みいただけます。

シスコシステムズマニュアルセンター  
<http://www2.hipri.com/cisco/>

上記の両サイトで、日本語マニュアルの記述内容に関するご意見もお受けいたしますので、  
どうぞご利用ください。

なお、技術内容に関するご質問は、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先 (シスココンタクトセンター)

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter>

0120-933-122 (通話料無料)、03-6670-2992 (携帯電話、PHS)

電話受付時間: 平日 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00